

「人は思い出をつくるために生きている」

なぜ生きているのか、誰しも迷うことだと思います。父曰く、嬉しいこともつらいことも経験して色々なことに感動し心を磨くためだということです。どうせなら、いい思い出、たくさんつくりたいですね。(保護者)

「『明るく、楽しく、前向きに！』笑顔で生きる」

人生において何度も壁にぶつかるだろう。辛いこともあるだろう。そんなときこそ明るく楽しく笑顔で自分に勇気を与え突き進む。結果はどうであれ、その経験が自分に大きな成長と思いをくれるはず。(保護者)

「働いているお母さんは輝いているよ」

仕事のため、学校行事に参加するのが難しい私なのですが、息子に謝罪する際に言われた言葉です。今ではこの言葉に誇りをもって日々働いています、疲労困憊のときは、この言葉が私を奮い立たせてくれます。(保護者)

「あなたと出会えてうれしかったです」

年賀状の担任の先生からの言葉です。生徒を大事に思う心が凝縮されていると思いました。これからも「あなたに出会えてうれしいです」と言ってもらえる人に成長してほしいです。(保護者)

「後悔はするな、反省しろ！！」

中学校の部活の顧問の先生が試合後にも言っていた言葉です。「今日の試合を反省し明日からの練習にいかせ、後悔しても何も生まれぬ。」この言葉のおかげで辛い練習も頑張ることができました。(保護者)

「くやしかったら頑張れ、泣いていても始まらないぞ」

泣けばそれで許されるということだと前進はできない。くやしい折にこの言葉を思い浮かべます。前を向いて行動することの出来たきっかけになった言葉です。何事にも積極的に考えられる様になってほしいものです。(保護者)

「Another Year closer to your dream」

(「あなたが夢に近づく1年でありますように」)

アメリカに留学した時、毎日課題に追われ苦しんでいました。そんな中迎えた誕生日。バット大のケーキが届き、ケーキに書かれていました。贈り主はわかりません。でも、それ以来誕生日は夢にもう一歩近づく日です。(保護者)

「どうせやらなきゃいけないなら、いやいややるより楽しくやった方がいいよね」

得意ではない仕事を任せられて不満を口にしたとき、友人に言われました。気持ちを切り替えて取り組んだら苦手なことも思っていたより楽しくできることに気づき、何でもやってみようと思えるようになりました。(保護者)

「止まない雨はない」

初任者のころ学級経営で悩んでいました。この言葉でもう少しがんばってみよう、最後までやり抜こうと思えました。出口が見えない、解決の糸口が分からないとき、今できることをやろうと一歩前に進める言葉です。(教員)

「心の帆を自分であげよう」

テレビで出てきた言葉で、自分もそうありたいと思った言葉です。誰にでも同じように吹く風にも帆の向きによって行く先が変わります。どんな苦しい時もよりよい方に進めるよう自分で心の帆をあげられるようでいたい。(教員)

ゆうき きぼう 勇気と希望がわいてくる

まほう ことばしゅう 魔法の言葉集

だい しゅう (第2集)

心の中の灯火

中学生のときには目立つのが嫌いでおとなしかった萩本欣一さんは、ある日友達に誘われて黒板にいたずら書きをしてしまい、叱られるのを覚悟したとき「男の子ってね、これぐらいの勇気がないとダメよ」といった先生の一言で、積極的な生徒に生まれ変わったのだそうです。(読売新聞)

小さいころ周りが驚くような事件を起こせばかりいた黒柳徹子さんは、いつも校長先生から「君はほんとうはいい子なんだよ」といわれ続けてのびのびと育ち、国民から愛される女優になりました。(『窓際のトットちゃん』)

中学校まで成績がオール1だった「何でも鑑定団」の北原照久さんは、何とか滑り込んだ高校でたまたま60点を取ったときに「すごいじゃないか。お前は俺のクラスの誇りだ。」という先生の一言でスイッチが入り、猛烈に勉強をし始め、ついに卒業時には学年で一番になったそうです。(日本教育新聞)

色弱で希望の高校に進めず抜け殻のようになっていた小堺一機さんは、ある日父親の「いいなあ、人と違う色が見られて」という一言によって心に太陽の光が差し込み、絶望から救われたそうです。(PHP)

親や教師がさりげなく口にした温かい一言が、子どもの心の中にしっかりと根を下ろす。そしてその言葉が、折に触れて心の中で繰り返されて、少しずつ大きなものになっていく。人生には、ときには嵐のような悲しみにうちひしがれたり、絶望感で心の中が空っぽになったりすることがありますが、その温かい一言が大きな「ともしび」となって、やさしく心の中を照らし続ける・・・。「ともしび」が人生を変える大きな力になるとするならば、親として、教師として、「ともしび」になるような温かい言葉を、どれだけ多く子どもに投げかけることができるか。それこそは大人の価値を計る重要な物差しのひとつだと私は考えています。

小金井市教育委員会 教育長 山本 修司

平成28年7月 小金井市教育委員会

「あなたならどこへ行って大丈夫」

わたしは家族の転勤による引越で、お別れがとても悲しくて泣いてしまいました。その時に担任の先生が言ってくれた言葉です。新しい学校でもがんばるぞという気持ちになれました。(小1)

「あなたにできないことは何もない」

プールのテストで落ちてしまった時や、つらいことがあった時言われました。次がんばろうという気持ちになって自分に自信がもてます。(小2)

「あなたがいるといつも幸せだよ！」

私は、パパと寝る前に「あなたがいるといつも幸せだよ！」と言われました。また、ママと一緒にいるときも言われました。そう言われると、心が温かくなります。(小2)

「いっしょにねよう」

ずっとママが弟と一緒にねていたから、私ももっとママとねたいと思っていました。ちょうどその時にママと一緒にねようと言ってくれました。うれしかったです。心に残っています。(小2)

「小さいことからコツコツと」

私は毎日辞書引き学習で20個ずつの言葉を調べています。調べた言葉に付箋をつけていて、今では3千枚以上の付箋が貼ってあります。これが私がコツコツとがんばった結果です。(小2)

「私がいるから大丈夫だよ」

この言葉を友達に言われたときは、友達が頼りになるなあとうれしかったし、お母さんに言われたときは安心しました。私も友達に言ってあげたいし頼られる人になりたいと思います。(小2)

「わたしあなたを見習いたい」

私が友達からもらった手紙に、「字がきれいだから、わたしあなたを見習いたい」と書いてありました。それから字に自信がもてるようになり、その言葉は今でも心に深く残っています。(小3)

「練習はうそをつかない」

この言葉はバレーボールの監督から言われた言葉です。日頃からしっかりと練習していれば試合でも力を発揮できるという意味です。私はこの言葉を信じて練習に一生懸命取り組んでいます。(小4)

「前へ進め」

勝つ自信のあった野球の試合にのぞんだが、だめだった。ショックだった。姉に試合の結果を報告したら「前へ進め」と言われた。その試合をいかして、これからは前へ進んでいこうと思う。(小4)

「経験が自分を大きくする」

音楽会のソロをやろうとして迷っていた時に、母が「チャレンジすれば」と言ってくれたので、「なぜ？」と聞いたら、「できなくても練習した分その経験が自分を大きくするからだよ」と言ってくれました。練習した結果、受かることができました。(小5)

「それがあなたの魅力だよ」

私は、他の人と比べてほくろが多くなやんでいました。ある日その悩みを友人に打ち明けたときに言ってくれた一言でした。それから私は、気にせずに平気で過ごせるようになりました。(小5)

「つらくてもそれをのりこえれば、次の新しい道が開くよ」

父の都合により6年生で転校した時のことです。なじめるか不安だった時に友達から届いた一通の手紙にこの言葉がありました。つらくても次を目指して一生懸命つくそうと決意しました。(小6)

「ほら、もう笑った」

私が学校で失敗し友達に責められた時に、おもしろい話をしてくれた隣の席の子が、笑っている私を見て言った言葉です。私はその言葉を思い出す度に自然と励まされます。(小6)

「平凡なる非凡」

勉強で行きづまっている時に、恩師からかけられた言葉です。この言葉は平凡なことを続けていけばいつかすごいことができるという意味です。この言葉で僕は受験という壁をこえたいです。(中3)

「寝れば治るよ」

落ち込んでいる時に母に言われた言葉です。買ったばかりのスマートフォンに夢中で夜更かしが続いていました。夜はよく眠ることを心がけたら毎日を穏やかに過ごせるようになりました。(姉)